

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第2回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和元年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

令和元年5月22日（水） 午後1時58分から午後8時45分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、
伊崎博幸、石野伸二、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、
竹内恵市、土屋博幸、永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正
- ・事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・伊藤委員を除く15人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：土屋委員、永野委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

一次第3議題（1）令和元年度地域活動支援事業について—

【高宮会長】

次第3議題（1）「令和元年度地域活動支援事業について」に入る。

本日は提案があった全事業について、提案者からの事業説明と質疑応答のあと、審査・採点を実施する。

正副会長は審査に加わるため、事務局が会の進行を行うことでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

【堀川センター長】

提案状況について、当日配布資料No.1により説明。

- ・提案事業17件、補助金希望額計1,031万4千円
- ・金谷区予算配分額850万円を181万4千円超過

審査の流れについて、事業提案者による事業説明を5分以内、質疑応答を15分以内、委員による審査・採点を2分以内で行う。審査・採点は、「審査・採点シート」を使い行う。「審査・採点シート」は、採点が終わったら事務局がその都度回収する。採点結果は、事務局へのシート提出をした時点で確定し、その後に疑義が生じても修正は認められない。

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

審査を始める。

整理No.1「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【石野委員】

長年この活動を続けていて、地元の人たちには定着された活動になっていると思うが、近隣の住民の方々から散策してもらう広がりについてはどうか。

【提案者】

何人来ているかは確認していないが、仕事をしながら、また見回りをしながらでも、かなりの方から来ていただいている。夫婦連れで散歩に来るほか、団体を歩いている方もいる。

【石野委員】

会報の「やまぼうし」を発行しているが、それをもう少し違う方向で、上越市民に伝わるような方法を考えたらよいのではないか。

【提案者】

5年くらい前に1回、冊子として発行した。また5年経つので、冊子としてある程度まとめたものを来年度に作ろうと思っている。

【桑山委員】

整備作業等の参加者は、毎年同じようなメンバーだと思うが、対策はしているのか。

【提案者】

会報で募集はしているが難しい。役員になった人は参加しているので、毎年同じということはない。基本的には最低限7～8人はベテランがいて、あとは新役員が参加するほか、春先の忙しい時期には応援を頼む。どうしてもということになると、一本釣りみたいな形でやるのだが、残念ながら爆発的には増えていない。そういった中で、活動できる範囲でやっている。

【川住副会長】

今年度は滝寺関係の提案が3件出ている。「滝寺砦整備事業」と、「金谷区滝寺不動尊 滝寺毘沙門堂活性事業」。これはお互いに連絡を取ったりして、役割分担をきちんとしているのか。

【提案者】

一度会ったことはあるが、私たちはイベントをやるわけではない。下草を刈って誰でも来られるように活動している。また、砦の方は、そこまで人数を割けない状態なので、滝寺まちづくり協議会としては協力できない。住民のイベントという形で、単発になると思う。滝寺まちづくり協議会の提案内容には入っていない。

【川住副会長】

「金谷区滝寺不動尊 滝寺毘沙門堂活性事業」の関係は、仕事が重複している部分があるのではないかと。連絡を取り合った方が効率がよいと思うが、今後連絡を取り合う予定はあるか。

【提案者】

取り合うに越したことはないと思うが、私たちも月に1回、第2日曜日で定着しているのだから、その日がたまたま重なって一緒になるようだったら、一緒に活動できると思う。

【土屋委員】

この事業は4月から3月までだが、今は5月の終わりで、4月と5月の事業は終わっているが、財源は大丈夫だったのか。

【提案者】

事業ができない状態だとまずいということで、事業費28万8千円をある程度町内会で負担するようになっている。提案している以上は、ここで採択されなくてもやる。

【村田副会長】

そうすると、町内会を母体としてこの事業は展開できると取れる。長年地域活動支援事業を提案されていて、100パーセント地域活動支援事業から捻出するという計画だが、町内会から助成金をもらい、そして足りない部分を支援事業で賄うという考えはあるか。

【提案者】

昨年度は町内会から13万円出ている。個人のチェーンソーや草刈機を借りているので、1回につき500円や1,000円を借用料という形で支払っている。その分の13万円くらいがあるので、予算は地域活動支援事業だけではない。財源が

絞られると、活動内容が狭まってしまい、自然保護活動に支障が出るので、ある程度助成金が必要。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.1「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」の審査・採点を終了。

整理No.2「正善寺ダム周辺のアジサイの維持管理及び、水質保全と環境美化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【石野委員】

活動自体はよいと思うが、アジサイの管理が雑ではないか。無謀に伸ばして、上にばかり伸びている。なぜそれがいけないかというと、駐車場から中ノ俣方面への道はすごくカーブが続いている。そうすると、アジサイが生垣みたいになって車が来るのが見えないところもあるし、道路にはみ出ている部分もある。ダムの管理所の前は昨年切ったと思うが、かなり切っても早めにやれば翌年はちゃんと咲く。もう少し見栄えをよくしたらどうか。

それと、ダムの駐車場から中ノ俣方面へ、県道から市道に変わる道路が狭くなるので、来訪者が多い時は、上がる車も多く、下ってくる車も多く、すれ違いできなくて渋滞したのが何日もあった。ライトアップばかりではなくて、会の方々がそこに立って、交通誘導をしたらどうか。観光を目的とした人だけがあそこを通るわけではない。中ノ俣に荷物を運ぶなど、いろいろな業者の方があそこを通っている。通行をスムーズにできるようなことを、ライトアップ期間中やあじさい祭りの期間中に、交代でやるようなことを考えてほしいと、1年間見ていてそう思った。

【牛木委員】

関連した話だが、道路の側溝があつて、山際に寄れないため危険である。補助事業ではできないので、市の方へ申請して、蓋をかぶせてもらうとか。前にもカーブのところを何か所か改修した。そんなことを会の方から市にお願いして、行政でもらえないのかと思っている。

【提案者】

雨が降ったりイノシシが掘り返したりして泥が側溝に入っていたので、それは3年くらい前から申請して、やっと昨年になってもらったが、蓋の方は考えていなかった。メンバーと相談する。

【石野委員】

側溝のことだが、深い側溝がある。徒歩で来た方が落ちたりすると怪我をすることもがあるので、それは市の方で調整した方がよい。

【齋藤委員】

正善寺ダムのアジサイは、これからまたよい花が咲くということで期待している。たくさんの方々が楽しみにしている。先ほど石野委員から花が残念だという話があり、私もそう思っていた。皆さん一生懸命やってきて、毎年本当に苦労しているのはよく分かる。本当はもっと大々的にやりたいという気持ちを持っているかと思うが、なかなか先立つものがないため、とりあえず補助金ということだと思ふ。もっと大々的にやるのであれば、例えばプロの造園業者など、アジサイだけでなくいろいろな植栽に詳しい方2～3人をお願いし、「今年はこの部分で植栽を入れる。」というようなことで計画的にやっていけば、「随分変わってきた。」となるのではないか。そうすると12万円以上かかるが、どうせやるなら思い切ったことをやってほしい。今年度の提案にあるのは活動の雑費等であり、最低限必要なものを、という考えなのは私も理解しているが、我々としては物足りないというのものもある。

【土屋委員】

アジサイのライトアップについて友達と話したら、「ライトをもう少し明るくしたらよいのではないか。」とか、「ライトを増やした方がよいのではないか。」とか、「せっかく宣伝するのであれば思い切ったことをしたらよいのではないか。」と

いう意見があった。お互い素人だから、明るければアジサイがよいのかどうかや、何をどこまでできるかというのは分からないが、せつかく苦勞されているのであれば、本当に誇ることができる、そんな事業になってほしい。

【石野委員】

これは参考だが、昨年観光バスで富山の方と長野の方が大勢来た。そういうところからも来ているのは確かだと思う。そのため、アジサイ自身の価値というか、見栄えというか、そこを考えたらどうか。

【提案者】

来ていたのは知らなかった。昼間か。

【石野委員】

昼間観光バスで来ていたので、何かのついでに寄ったのだと思う。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.2「正善寺ダム周辺のアジサイの維持管理及び、水質保全と環境美化事業」の審査・採点を終了。

整理No.3「金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求めるがなし。

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.3「金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業」の審査・採点を終了。

整理No.4「金谷区歴史観光開発町おこし事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求めるがなし。

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.4「金谷区歴史観光開発町おこし事業」の審査・採点を終了。

— 15分休憩 —

【堀川センター長】

整理No.5「滝寺砦整備事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

活動があまりよく見えない。要はまちづくりを中心とした考えが主だと思われるが、狼煙上げは昔からやっているのか。

【提案者】

滝寺は昨年から。

【石野委員】

確か、謙信公祭で狼煙を上げる時に、市から助成金が出ているはずだが、それは

今なくなってしまったのか。

【提案者】

1万円出ているが、別のことに使っている。

【石野委員】

案内標識だが、1基10万円ほどかかり、金額が非常に大きい。前にも正善寺の方であったが、なぜこんなに高くなるのか。擬木を使うのだと思うが、単価で1本10万円もすることは絶対ない。案内標識を設置するだけと見受けられる。あとイベントとして、8月17、18日くらいに狼煙を上げると思うが、その活動だけしか見えない。その辺についてはどうなのか。

【提案者】

まず看板の金額だが、約97万5,000円なので、100万円近い金額になる。これは春日山城南三の丸にあるものと同じようなものを提案している。その奥に木の看板があるが、5年か6年くらいで劣化してしまった。提案している看板は、半永久という言い方はオーバーになるが、例えば50年持つとすると、97万5,000円だったら年間1万9,500円になる。だから非常に少ない金額であると私は考えている。

次に狼煙上げだけという質問については、滝寺砦のところに看板を設置することによって、愛の風公園から滝寺砦まで歩ける。それから滝寺砦から毘沙門堂の方に行ける。毘沙門堂から滝寺不動尊、あるいはミズバショウ群生地というように、滝寺町内全体を散策できる。このようにしていろいろな方に来てもらうことにしている。昨年も滝寺町内へ、いろいろな団体の方、あるいは会社の方も来て、金谷山から歩いて滝寺の方に回って来た。こういう看板を付けることによって、まず道に迷うことがない。昨年看板がないために、山の中で警察の世話になったという事件があるので、早急に付けさせてもらいたい。

【山口委員】

石野委員のとおり、看板の見積り額が大きい。看板の表示が中心なのだろう。例えば、杭は他のものを利用して、表示文字だけは工夫して、もう少し安くできないのか。

【提案者】

木の看板というが、例えば市役所の駐車場には、「来客用駐車場」という鉄のポールがある。あのようなものも考えてみたが、ああいう鉄類はだいたい15～6年たつと、ポールの根元のところから腐りが入る。だがこれは、土の中に埋めて立ててあっても腐らない。半永久的と言ったのはそういう意味。オーバーに言えば100年と言いたい。50年持てば1万9,500円。80年持てば1万2,000円。だから、一年換算で一番安い提案ではないかと考えている。

【山口委員】

確かに半永久的となると腐らないのが必要だが、木であっても、例えば防腐剤を塗ったりすれば20年は持つ。全体を鑑みても、850万円の予算に対し17件の提案があるが、他と比べると看板だけで突出しているのではないかと。

【齋藤委員】

非常に耐久性のあるものだというので、適切にしてもらいたいが、長く持てばよいのかというのもある。何年前に、正善寺の看板が提案された。1基あたり10万円以上、もっとしたかもしれない。今回は、自然とマッチするような看板を考えたのかと思うが、看板だけが立派と感ずる。

その他に、比較的新しいコースがあるので、どういうルートで行けるのか、マップを見ても理解できない。道に看板を設置したら、それだけで皆さんが問題なく楽しめるのか疑問。少し急というか、いろいろなものがまだ見えてこない。その辺りの整備がむしろ先ではないか。あるいは並行してやってもらおう。看板だけにこれだけというのは、果たしてどうなのか。その辺りを説明してもらいたい。

【提案者】

砦の方を周遊できるコースがあるので、町内会全体で道の整備などはずっと続けていく予定である。

【齋藤委員】

現在は、普通の人たちが問題なく行けるようになっているのか。

【提案者】

そう。

【齋藤委員】

階段等はある程度整備してあるのか。

【提案者】

これからである。

【齋藤委員】

その資金はあるのか。

【提案者】

来年提案するかもしれない。

【齋藤委員】

とりあえず看板を何とか、ということか。

【提案者】

とりあえず看板を設置して、次に足場を組むとか、階段を付けていくとか、そういうようなものが必要になってくる。来年度、一部ここだけをとるように、古道の整備と同じようなものだが、提案する予定である。

【齋藤委員】

看板がなかったため道に迷ったという話もあったので、何とかしなくては行けないということで考えられたと思う。

【村田副会長】

看板の材質。それから相見積りを取っているかどうか。1基あたり10万円する看板というのはなかなか理解できない。冬場どんなに雪が降っても倒れないような看板だろうと推測するが、どうしても1基10万円する看板は、皆さん想像できないと思う。材質はステンレス製なのか。

【提案者】

相見積りは市に提出してある。

材質は、特注のプラスチックの擬木である。

【石野委員】

では1本1万円しない。

【村田副会長】

費用は製作費だけか、取付けまで入るのか。

【提案者】

取付けは会員と業者で行う。当然業者も一緒に行かないとできないので、会からも人手を出して、一緒にやる。

【村田副会長】

取付け費も入って約97万5,000円になるのか。

【提案者】

取付け費は入っている。我々で穴を掘って埋めるというわけにはいかない。一緒にやるということ。会からも何人かが出て、担いで上がる。

【石野委員】

ある団体の話を参考に。看板は腐食などが想定されるので、冬場は外して、春先にまた付ける。穴を掘っておいて、パイプ状のものを埋めておいて、そこに看板を設置して、また冬場外す。雪にも凍害にもならないようにしている団体もある。

あと、やはり活動。これを整備して、いろいろ周知して、ウォーキング会をやるとか勉強会をやるというのが本来の地域活動支援事業だと思うので、そうしてもらいたい。

【提案者】

将来的にはそれをやる予定だが、とりあえず看板を設置する。それから順番にそれに入っていくという流れ。最初から、勉強会をやるのに人を集める、狼煙を上げるのに人を集めるとしたら、ばく大な金額になるため、順番にやっていく。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.5「滝寺砦整備事業」の審査・採点を終了。

整理No.6「里道（旧後谷線）の整備事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者1、提案者2】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【齋藤委員】

昨年大きな工事をして、終わったのは何月頃だったか。

【提案者2】

昨年の階段が終わったのは7月の下旬。

【齋藤委員】

その場所は、今回問題になっている湿地帯か。

【提案者2】

別の場所。

【齋藤委員】

別の場所と言っても、同じようなところだろう。

【提案者1】

今話があった場所は、桜清水に行く途中のところ。清水まで行くとなると、どうしてもそこを通らないといけない。

【齋藤委員】

最初からそういう状態だったのか。

【提案者2】

昔、あそこは田んぼだった。だから水は結構あったものだから、それが無法地帯になってしまい、尾瀬沼みたいな感じになってしまった。

【齋藤委員】

コース的にはそこを通らないと駄目なのか。

【提案者2】

そう。そこが赤道になっていて、違うところを迂回することはできない。

【齋藤委員】

尾瀬沼みたいというのは。

【提案者2】

沢や川が2本あるので、そこを渡るのに、昔は木の渡しがあった。そこにヒューム管みたいなものを入れて橋みたいにする。

【齋藤委員】

いろいろなやり方があると思うが、ハイキングをやる人たちから、そういう声が出てきたということだろう。実際に、桜清水まで行ったという方も結構いらっしゃるとのことだが、やはりサークルやグループなどが行かれるのか。

【提案者1】

聞いている話では、金谷区の南部の方で、町内会から老人会に有志を募って登ってみたい、歩いてみたいという話があるので、それをサポートしながら進めていきたい。そのようなお年寄りの方が結構いる。

【提案者2】

途中に堀を掘ったような道があるが、その周りが木で覆われていて、グリーントンネルになっている。夏場に行くと、本当にそこがグリーントンネルみたいな感じであり、こういうところは非常に喜ばれると思うので、活用を考えたいという話をもらっている団体もある。

【齋藤委員】

杭はプラスチックか。永久的にといいか、そのままか。杭なら取り外ししなくてよいだらうから、そのまま固定してしまう。風景的には、尾瀬の木道のようなものか。その辺りは、費用的には高いのか。

【提案者2】

杭はプラスチックの擬木である。上の踏板は、松の木に防腐剤を塗る。

【齋藤委員】

パイプみたいなものは。

【提案者2】

それは少量。上に置くのは板。

【齋藤委員】

プラスチックだと滑ってしまうからだろう。

【提案者2】

プラスチックでやるとかなり高い。ベニ松の方が値段的に下がる。

【齋藤委員】

木は腐りやすい。

【提案者2】

松というのは水にやられてしまう。

看板は、秋口に外して春先に付けるという方針でやっている。

【竹内委員】

私も行ったことはないのですが、一度行ってみたいと思う。

この事業費255万7千円が採択されると、3年間の総額で一体いくらかかったのか。自然を相手にしていると、毎年そこを構わないといけない。私も山を持っているが、常に木が出てきたり草が生えたりで、これで全て終わりということは有り得ない。常に何かしていないといけない。次年度以降、元の後谷まで到着するためには、あと何年くらい続くのか、目途を教えてください。

【提案者1】

今考えているのは、だいたい総額750万円から800万円弱くらい。

【提案者2】

今回採択されて、650万円ちょっと。

【提案者1】

今後の維持管理については、会員と一緒に、最低でも年2回くらいの草刈りや雑木処理のほか、枯葉や枝落ちとかいろいろなことがあるので、それは毎年継続してやっていく予定になっている。

【提案者2】

今年の計画で、元後谷集落までは草刈り等が全部終わって、全部歩ける形までやる。土木工事として残るのは、県道にぶつかるところで20段ばかり階段を付けないといけないが、今回はそれを入れていない。来年度以降、地域活動支援事業を使うか、それとも別の支援を受けるかは、別途検討する。

【竹内委員】

頂上辺りから中腹まで下りていくのだろう。

【提案者 2】

林道の登り道と尾根が交差していて、そこから下るのだが、下るのは200メートルくらい。今伐採を全部行って、整地してある。元々の路肩（みちかた）があるので、きれいに仕上げていきたいと思う。今後、この3年間のような金額の費用がかかることは多分ないと思う。せいぜい40～50万円くらいに抑えたい。

【竹内委員】

完成したら、今度は下の方から草だらけになっていく。今もそうだが、だんだん皆さんも年齢が上がってきて、一生懸命作った人が山へ行けなくなるのは間近である。850万円もかかるということだから、観光としても大いに活用してもらいたい。

【提案者 2】

ちょうど真正面から新幹線が見えるので、昨年白い旗みたいなものを設置した。「あれは何か。」という形で、いろいろ評判になった。そこに、今年はもう少し違いのぼりを作って目立つようにして、「何があるのだろう。」と、広範囲に知らせることを考えたい。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.6「里道（旧後谷線）の整備事業」の審査・採点を終了。

整理No.7「安全安心まちづくりの防犯活動強化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者 1】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【吉村委員】

現状、雨天、荒天の場合や冬期間の活動はどうなっているのか。

【提案者1】

町内によって違うので私は分からない。防犯協会全体で取り組むというのは特にない。ただ防犯協会という組織の中で、過去にも地域活動支援事業を利用した経緯はある。

【吉村委員】

各町内にお任せということは、冬期間の活動はないかもしれないということか。

【提案者1】

学校があれば、児童の送り迎えはする。夏休みはないかもしれない。そういうことで、休みの期間はやっていないが、平日、授業がある時は、登下校の見守りをやっている。

【石野委員】

昨年度の収支決算を見ると、収入に対して支出が3分の2で、3分の1が繰越金というか、余剰に回っている。多分毎年だと思うが、これでいくと積立金はかなりあるような気がする。それなのに、66万6千円を全て地域活動支援事業に要求というのが、解せない部分がある。パトロールの頻度は町内任せとのことだが、例えばある小学校区では、毎日パトロール者が登下校時に一緒に歩いて小学校まで行っているが、活動が見えない。このレインウェアがなければ絶対できないのか。

【提案者1】

あることはあるが、絶対数が全然足りない。皆自前のものを持ってきて、その上からオレンジのものを付けているが、やはりきちんとそろえた方がよいのではないか。道具を全体でそろえたら、防犯活動だと見てもらえるのではないか。決して余分なものを買うという話ではない。人間が変わっても、新しいものを使わなくてもいいように。お金がないのでできないというのではいけない。協会として何とかできないのかというのは、長年あった。長い期間使っていたので、そろそろ一式そろえた方がよいと思って、今回提案した。

【石野委員】

雨対策の手段というのはいっぱいあると思う。晴れていれば、ベスト状のチョッ

キを着て行っているところがほとんどだと思う。雨が降っても、下にカッパを着て、その上にベストを羽織るという使い方もあるかと思うので、そういう部分も考慮してもよいと思う。同じ金額で、もっと枚数を多くできる。

【提案者2】

防犯活動については、御殿山町、昭和町1丁目、昭和町2丁目、上昭和町は今住宅地であって、児童がたくさんいて、この町内における登下校の見守りを常にやっている。学校がある日は、毎日全て回っている。新聞や安全メール等に出ているかと思うが、昨年飯小学校区における不審者出現が10件ほど出ている。全て犯罪に結びついたわけではないが、不審者騒ぎで、各町内のオレンジキャップ隊の皆さんは真剣に回っているということで、出ないということは全くない。

もう一つ、当初はオレンジのベストと帽子であった。雨や雪になると、出ている方々が結構高齢なので、体調を崩さないようにアノラックの上に着ているが、それよりもこの雨具の方が健康のためによい。それをやることによって、さらに子どもたちの見守りに地域の方々が出てくれるようなところがある。滝寺でも、少ないが不審者が出たということで、まなびヶ丘、上昭和町の団地、滝寺の本村と児童が分散しているため、積極的にボランティアで児童を見守っている。もう一つは夜間。金谷地区振興協議会からLEDの提案があったが、夜間の防犯活動については、飯地区防犯協会が積極的に夜警回りをしている。

【土屋委員】

雨具を業者に発注するのが8月初旬となっているが、なぜ8月なのか。梅雨時に雨が降るので、8月でないといけない理由があるのかもしれないが、地域活動支援事業が採択されたら、6月や7月に発注する考えはないか。

【提案者2】

飯地区防犯協会という名前を入れてもらうのだが、その関係がある。今回採択されれば、もう少し早めに注文ができるかと思う。余裕を見て8月とした。

【桑山委員】

各町内に配布という形になるが、各町内の雨天時のウェアはどういう状況か把握しているか。

【提案者 2】

各町内会の担当者に聞くと、オレンジキャップ隊が83人、それから防犯隊の防犯関係が55人いる。今までも、平成27年に地域活動支援事業を使い、防犯関係の雨具が採択された。ただそれも、その方専用に使ってもらうので、辞めた後に「これを使ってほしい。」と言っても、なかなか難しい。その辺もあつたりしたので、今の人数の中で、足りない枚数だけ提案した。

【桑山委員】

私はこの前、夜警パトロールに参加したが、夜専用のウエアがあるからそれに着替えるよう言われた。各町内に振り分けて、皆で共有して使うという形だが、今使っているものは使わないということか。

【提案者 2】

年数が経って破れたりしている。

【桑山委員】

私が借りたものはそんなには破れていなかったの、どうなのかと感じた。

【提案者 2】

私も着ているが、やはり裾が。

【高橋委員】

私もそれを使ったことがある。今でも使っているが、例えば他の人が被ったキャップを被るというのは、今のご時世、他人が着たものを回して着るというのはあまり好ましくない時代なので、新しく入って来た人には新しいものを。在庫が全然ない。新しく参加する人にあげたいが、なければあげられない。なので、必要だと思う。

【竹内委員】

桑山委員の話は、同じオレンジでも、町内で買った、オレンジキャップ隊の名前が入っていないもの。それを出てきた人に貸しているということだと思う。今ここで提案されているのは、そうではないのだろう。

【提案者 2】

高齢化してきているものだから、体を壊してはいけないということで。

【高橋委員】

これは防寒雨具か。

【提案者 2】

そう。雨が降った時は、いつも来ている方が来られない。聞いてみると、風邪気味だからとのこと。そういう健康状態から見ても、地域の子どもを守ることから、大切なことではないか。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.7「安全安心まちづくりの防犯活動強化事業」の審査・採点を終了。

整理No.8「金谷区飯支部の交通安全確保事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者 1、提案者 2】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

昨年減額された分のできなかった部分を、今年度に回したという認識でよいか。

【提案者 2】

それを含めて。主に白線のライン。新たに、交通安全用品とのぼり旗。

【石野委員】

昨年の収支実績を見ると、収入が約80万円に対して、約30万円が次年度に繰越しという形になっているので、昨年減額された部分をなぜここから支出して完成できなかったのか、教えてほしい。

【提案者 2】

これ以外にも自分たち単独でやらざるを得ない場所もあるので、そのために残しである。また、各町内から、「ここを直してほしい。」「あそこを直してほしい。」と

出てくる。それは地域活動支援事業の提案に間に合わないので、そのために残して、今年度の事業にあてる。既にある町内から、通学路の看板の字が見えないから建て替えてほしいと要望があった。いざという時、いろいろなものに出せるような資金にしている。

【石野委員】

私は1年間、上正善寺に通っていた。飯小学校の前を通っていたが、登校の時間帯がちょうど通る時間帯だった。小学校の校門を過ぎて少し上がったところに、上昭和町の方から子どもが通る横断歩道があるが、あそこの角が生垣みたいな形で、子どもが見えない。なぜそこに立哨がないのか。そこは本当によく見えなくて、後ろの子が走ってきて、ぱっと渡ろうとするようなことも多々見受けられた。この白線よりも、そういうところで子どもたちの安全をもう少し考慮願えないか、というお願いである。

【提案者1】

あそこは見えない。

【石野委員】

ロードミラーではなくて、人が誘導するようなことで考えてほしい。

【提案者1】

運動しているときには立っているが、他の時は誰もいないと危ない。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.8「金谷区飯支部の交通安全確保事業」の審査・採点を終了。

整理No.9「グラウンド・ゴルフで地域を活性化させる事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【吉村委員】

施設使用料はいらないのか。どこかのグラウンドを借りるとか。どこでもできるのか。

【提案者】

黒田小学校のグラウンドで考えている。一番長いところで60メートルは取らないといけないが、コースの旗を立てておけば30メートルでもやれる。灰塚のゲートボール場は2面あるので、コースを縦長にすればやれる。

【吉村委員】

ゲートボールのコートでもできるのか。

【提案者】

そう。学校へ話したら、幼年野球でも使っているため、お互いに調整しながらやればよいとのことで、学校からも許可をもらっている。

【吉村委員】

施設使用料というのとはなくてもできるのか。

【提案者】

できる。

【吉村委員】

ゴルフの場合だと、「どこのメーカーの何の型でないと私は嫌だ。」とかがあると思うが、これは皆で使い回しができるものなのか。

【提案者】

そう。皆で使い回しができるから、3セットという形。

【吉村委員】

予算では3組になっているが、金額は2セット分の金額しか載っていない。

【提案者】

これがセットになっていて、これが1組でよい。

【吉村委員】

3組で1セットということか。分かった。

【高橋委員】

これは今流行っているのか。

【提案者】

流行っている。今回上越市で第1回の大会をするということで、青水会としては参加する予定である。

【石野委員】

希望額の半分以下とか、ゼロになる可能性がないとは言い切れない。その時に青水会としてはどうするのか。

【提案者】

採択されなかったら、その時に検討する。

【石野委員】

早速今年参加しようと言っていたが、これが買えないと参加できないから、どうされるのかと思った。

【提案者】

そういう部分も考えているが、ひとつお願いしたい。

【石野委員】

ということは、減額は厳しいということか。

【川住副会長】

今まで聞いたことのない、新しいスポーツ。これからゲートボールに代わるほど発展していくのか。それから、ある程度団体がないと試合にならないと思うが、上越市に何組かあるのか。

【提案者】

11月8日の試合に行った時は、約70人参加され、それも同じ地域の人ばかりではなく、広い地域の方が参加したと聞いている。上越市も力を入れている競技。第1回の試合が6月にあるので、それだけ力を入れていると思う。

【石野委員】

ゲートボールでけんか沙汰になったということを知ったことがあるが、グラン

ド・ゴルフだとそういう点はどうか。

【提案者】

グラウンド・ゴルフは、自分の実力。ボールを打って、マスの中に入れればよい。ゲートボールだと、邪魔してコートから出したりするが、そういうことがなく、何打で入るかというもの。

【石野委員】

ゲートボールのようなチーム戦ではなく、個人戦なのか。

【提案者】

ほとんど個人戦。基本的にはゴルフと一緒に。やり方は違うが、何打で入れるかということ。

【竹内委員】

ゲートボールは5人でやるが、これは何人でもよいのか。

【提案者】

そう。3人でもよいし、5人、6人でも。だがクラブが6本セットなので、上限は6人になる。

【竹内委員】

私も1回やったことがある。長野県の大町に山道のコースがある。道具は全て貸してくれた。山道みたいなコースでやる場合もあるし、これはグラウンドでやるのだろうが、同じものを使ってもいろいろなやり方がある。

【提案者】

ゴルフと同じように障害物があったり、そういうのを越えて入れると面白くなるらしい。女性の方も参加している。

【竹内委員】

そういうコースをやらせてもらったことがある。木に当たって跳ね返ってきたり、坂道を登れないで下ってきたり。

【伊崎委員】

私もグラウンド・ゴルフを一度やったことがあって、非常に楽しい思い出がある。7月、8月、11月にミニ競技会の実施とあるが、私の友人もこの町内に住んでい

て、そういったイベントの周知があれば、参加したいと思う家族である。小さい子どもから楽しめる競技だと思う。どのような周知をする予定か。

【提案者】

年に3回くらいは講習会を開きたいと思っている。黒田小学校のグラウンドは広いが、桜の木があったり、草があったりする。会員が260人いるので、その中で選手を集めて、また講習会をして子どもたちに教えて、その後文書を出しながら周知していきたいと思っている。ゆくゆくは金谷区中部、北部にも広げていきたい。そこで道具が足りないということになれば、中部に頼むとか、北部に頼むとか、そういう形にしたいと思う。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.9「グラウンド・ゴルフで地域を活性化させる事業」の審査・採点を終了。

— 15分休憩 —

【堀川センター長】

整理No.10「金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を図る事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者1】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

サザンカップ開催の関係費用について、この大会は参加チームから参加料はもらっていないのか。

【提案者1】

もらっている。

【石野委員】

その収入が提案書には何も記載されていないが、その分はサザンカップの費用6万7,000円から引かれ、足りない部分を補助希望額に乗せるのではないか。

【提案者2】

参加費分を引いた額だと思う。会場使用料、関係者飲料、賞品、備品等で明細が入っている、ということになる。

【石野委員】

優勝カップは、毎年新しいものなのか、持ち回りなのか。

【提案者2】

持ち回りなら、紐だけ使うとかになると思う。

【石野委員】

何年度優勝という形で。普通こういう大会は、優勝カップやトロフィーは持ち回りで、返すのだろう。

【提案者2】

バスケットボールの場合は、レプリカを作るというやり方をしている。そういったものを買うということ。

【石野委員】

支出は全て地域活動支援事業を使うという形だが、地域活動支援事業が全く使えない状態になったら、会が全部負担するのか。

【提案者2】

デジタイマーについては、ルールが変わるという話は3月くらいに分かっていたが、その時はまだタイマーが使えるという話であり、今回の提案をする予定ではなかった。保護者会費や子どもから徴収しているお金があるが、そこで何とかやりくりをしている。あとは、子どもたちのユニフォームがかなりぼろぼろになっているので、そういうところも年5,000円なり1万円なり積立をして、ある程度お金が貯まったところで買いたいという考えはある。なので、今回はデジタイマーが大

きく引っ掛かっていて、試合をするにも公式ルールに則ったものを持っていないので、デジタイマーの方は大きい金額になっている。他には、こちらで行っている大会を今年もやっていきたいということもあり、あわせて提案している。

【石野委員】

昨年の収支を見ても18万円ほど繰越しされているが、18万円は何に使われているのか。

【提案者1】

提案がうまくいかなければ、必要な経費に充てる。また、必要なものがあれば、新たに。

【石野委員】

大会を主催するのであれば、収支決算で黒字にならないまでも、とんとんになるように参加費を取るべきではないか。長く続けていくにはそれが一番よいと思う。

【川住副会長】

収入額が84万1千円で、構成員数が20人ということで、一人あたり約4万円。金額的に大きいですが、カップの収入も含めてどうなっているのか。会費はいくらというの分かるか。

【提案者2】

子どもたちからの月会費が、今は1,500円。それを12か月。まとめると結構な金額になるので、3か月くらいのスパンで徴収するようにしている。あと保護者会費として1年間で1,000円という形で、4月にあわせてもらっている。あと細かくかかっているのは、選手登録。新潟県の登録、と全国の登録代。それに伴って、もし怪我をした時の保険をかけているので、それらの費用。あと、各種大会に出る時の参加費、1回3,000～5,000円くらいが1回の大会でかかる。県内の相場が3,000円くらいで、大会の参加費だけで12万円くらい。あとは保護者会から出しているのが、大会に出ている時の水分補給の関係。スポーツドリンクで、大きいものでなるべく個数が多くて、安く済むような形にはしているが、それでも5万円程度はかかっている。あとは、怪我をした時の応急処置ということで、テーピングだったり絆創膏だったり、メディカルバックに入れて使っている

が、それも10万円前後かかっている。

【土屋委員】

サザンカップが8月の予定になっているが、具体的にどこの会場でやるというのは決まっているのか。地域活動支援事業が採択されるかどうかで変わってくるのか。

【提案者1】

大会の規模は、採択されるかどうかによる。

【提案者2】

場所としては、清里のスポーツセンターが一番よい。周辺の大会もそこが多い。あとは、これから始まる市内大会や県大会などの大会のベースとなるのが、清里スポーツ体育館になるので、慣れるためということもある。また、8月と記載しているが、4月のルール改正に伴い、小学校、中学校、高校全部統一だが、地域ごとに、それぞれの学校、中学校なら中学校同士で総当たり戦をやるというルールができた。それが急にできたので、コーチ陣、先生方含めて、どこかでやらないといけないと話しているが、8月のいつにできるのかははっきり分からないような状況である。

【竹内委員】

3年連続で金谷区に提案されているが、他の区でも提案されているのか。

【提案者1】

ここだけである。

【竹内委員】

提案書には城西中学校区の児童と書いてある。金谷区の子どもたちが中心だからここに提案しているのだろうが、次は他の区にも。城西中学校区には他の地域協議会があるだろう。そういうところに提案する考えはないのか。

【提案者1】

黒田小学校を中心にやっているのです。

【提案者2】

当初提案する予定はなかったが、それが急きょタイマーの件があがって、提案するとなった時にはこの地区と考えていた。今後もないと思う。

【齋藤委員】

ミニバスケットボールは小学生が対象になるのだろうが、中学生になると普通のバスケットボールになるのか。県内にもプロチームがあり、活躍している選手もいる。ミニであっても、基本的には同じルールなのか。

【提案者1】

ミニバスケットボールというのは、小さい子ども。中学生からのバスケットボールとルールがかなり違う。例えば、参加するのは10人とか。

【齋藤委員】

ちなみに小学生は、普通のバスケットボールのチームや試合はないのか。小学生だからミニになるのか。

【提案者2】

小学生を対象にしているのは、バスケットボールではなく、ミニが付いているミニバスケットボール。細かいルールを説明すると分からなくなってしまうと思うが、基本的には、やってはいけない行為は同じ。時間に関してもほぼ共通になり、一般まで同じ。私たちは上越南ミニバス教室というところだが、小学校単位で作っている学校もある。

【竹内委員】

飯小学校もある。

【提案者2】

全チームの数は分からない。

【齋藤委員】

ちなみに、上越南ミニバス教室というのは有志の親睦団体みたいなものか。

【提案者1】

バスケットボールをやりたい子どもと親が集まって、そこから始まったのが、20人を超えて、何とか続けてやってきているという状況。

【齋藤委員】

そういうのをまた充実していこうと。

【提案者1】

そう。

【齋藤委員】

全国大会で優勝したことはあるか。

【提案者1】

市内大会での優勝を目指して普段からやっているが、去年は市内大会で準優勝だった。今年は何とか優勝したい。選手に頑張ってもらわないといけない。

【齋藤委員】

うまくなれば、あるいはそういった大会でいいところまでいけば、一つの張り合いになる。頑張ってもらいたい。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.10「金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を図る事業」の審査・採点を終了。

整理No.11「金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

足型のカラー Sprey の金額が高い。金額は分からないが、歩道などの白線のマーカーをやっている会社に外注して、ペンキなどのしっかりした材質のもので足型をやった方がかなり持つと思う。Sprey 1本でも結構塗れると思うが、それで中途半端にやるよりも、きちんとやってもらった方がよいと思うが、今後検討してみてもどうか。

【提案者】

工事をやった後、私たちの足型マークが消えてしまうため、工事の業者が焼付けのものをやっている箇所はある。神山町内はそれをやっている。あれだと恐らくかなり持つと思う。見積りを取っていないので金額はよく分からないが、今後検討していきたい。

【石野委員】

1年で全部やらなくても、年度計画でこうやっていくと検討された方がよい。

【提案者】

1本のスプレーで3か所くらいしかできない。100か所以上をやっているの、だいたい3年から4年でスプレーがなくなってしまう。また、あまり長く使っていると、今度は固まってきてしまう。石野委員のとおり、それは本当に検討課題である。ただ、見積りを取らないと分からない。

【石野委員】

検討してほしい。

【吉村委員】

足型マークについて、どこに付けるかは各町内の担当役員に任せているのか。それとも提案者の方で状況を把握していて、指示を出すのか。

【提案者】

150か所くらいになるので、私からは、「交差点や横断歩道といったところに付けてほしい。」という指示しか出していない。変なところには恐らく付いていないと思う。

【吉村委員】

用もないところに付いているということではなく、結構きめ細かく付いているから、付いているところは皆大事なところなのだろう。

【提案者】

やはり、子どもが対象。高齢者の方は、それを無視してしまうのではないか。

【吉村委員】

高齢者の方は気にしない。

【提案者】

子どもには「絶対これより前に出るな。」と私が指導している。「前に出たら、車なんていつ何時当たってくるかもしれない。」と。だからかなり下げてスプレーさせている。

【吉村委員】

先の時間に、飯地区防犯協会から、冬でも着られる防犯用の、オレンジ色の蛍光で、「飯支部」とネームの入ったレインウェアの提案があったが、上越交通安全協会灰塚支部は冬期間の活動はどうしているのか。自前のカップにオレンジベストか。

【提案者】

冬期間も立哨はある。冬の交通安全運動の時など。それが12月20日から十日間くらいあるが、学校が冬休みに入れば立哨はしていない。他の団体のものを参考にしてみ積りをもらったが、それはやめておいて、現在の提案内容にウエイトをかけた。

【村田副会長】

カーブミラーを付ける場所が、金谷町内会館前。市道に付けるのだろうが、町内会館に出入りする方の交通安全を図りたいという趣旨のように思えるが、町内としては何もしないで、今回の提案で補助してもらおうと考えたのか。

【提案者】

町内会の皆さんの利用もあるが、以前は儀明川ダムや山麓線などの期成同盟会、現在は交通安全の総会などで使用している。また、自民党の総会でも利用しているのではないかと。私が副町内会長の時、町内会館の管理をしていたが、結構来ていた。

【村田副会長】

町内会として提案するという考えにはならないかという意味である。そちらに全てお願いしたのか、それともそちらで付度したのか。

【提案者】

金額が相当高いし、灰塚支部も大変厳しい財政事情である。上中田のカーブミラーは地域活動支援事業の採択を得ている。その他にも、カーブミラーは結構採択されている。そういうことで、町内会長から相談を受けたので、提案をした。

【齋藤委員】

金谷町内会館前は2車線にしては結構広い。寺町の方から来るとカーブしているため、そこが見にくいのかなと思う。山麓線の方から来ると真っ直ぐで、それほど見えにくい場所ではない。今回のカーブミラーは2面か。

【提案者】

2面である。

【齋藤委員】

カーブミラーがないと事故が起きてもおかしくないという声が上がってきたのか。

【提案者】

警察を呼ぶような事故はなかったが、かなり危険度が高い。南側の寺町1丁目の方から来る車が見えにくい、山麓線から来る車についても、近くのデイサービスが植栽をしており、ひまわりが伸びて結構見えにくくなる。そのため、右から来るのも左から来るのも危険ということ。町内のごみステーションをあそこに一括集約したので、町内150世帯全部あそこに出入りするようになってしまった。

【齋藤委員】

一昨年、上中田でカーブミラーを設置したのなはぜか。

【提案者】

あれはブロック塀があって、事故もあったので、町内会長から依頼された。

【齋藤委員】

一見すると真っ直ぐな道なので、カーブミラーというのはどうなのか、別の方法もあるのかと思い、聞いた。

【提案者】

何でもそうだが、事故が起きてから。信号機も、死人が出てから信号機を付けようとなる。そうではなく、始めから事故を起こさないためにやろう、という発案。

【齋藤委員】

12万9,000円のカラーズプレー。100か所くらいあるとのことだが、飯支部の方でも足型があるとよいと思う場所がある。もっと簡単にできればと思う。値段も結構するのだなと思った。前にあったものがいつの間にか消えてしまい、ま

た付けてもらわなくてはいけないと思っているが、そのままになっている。飯の方では足型がない。

【提案者】

金型の足型は1個1万円くらいする。それは自前である。

【齋藤委員】

何百回も使えるだろう。

【提案者】

ベニヤか何かの木であれば早いのだが、それだとすぐ壊れる。金型は10年以上使用している。金型があれば、簡単。ただ先ほどの石野委員のとおり、ペイントの焼付けでやればかなり持つと思う。おそらく金額的に相当するのではないかと思うが、どうか。

【石野委員】

ラインで引くわけではなく、ポイントになるので、金型的な初期費用はかかるかもしれないが、あとはそれほどでもないと思う。ただ材質がいっぱいあるらしいので、それを何にするかで違うと思う。

【提案者】

見積りを取ってみる。

【桑山委員】

のぼり旗のポールだが、毎年交換か。

【提案者】

風が強いと、頭が折れてしまう。ポール自体は折れない。上からかんざしを入れる、あの頭が折れてしまうともう使用不可。

【桑山委員】

そこだけ交換でよいのでは。

【提案者】

スペアだけで売っているのか。

【石野委員】

かんざしだけで売っている。

【桑山委員】

強化ポールというのものもある。折れにくい。それも検討すると、毎回交換しなくても、予算的にもできるかと思う。

【提案者】

業者に聞いてみる。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.1 1 「金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業」の審査・採点を終了。

整理No.1 2 「金管演奏による黒田小学校区地域活性化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者1、提案者2】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

購入する楽器の金額はどの程度なのか。初心者が使う程度の楽器の金額なのか。

【提案者2】

業者に確認したところ、子どもたちが扱いやすい一般的な楽器ということで、特に高価なものではなく、初心者が使っているスタンダードな楽器の値段である。

【石野委員】

次年度以降、継続的な購入というのはあるか。

【提案者2】

担当に確認したところ、今年度は2学年一緒に活動するが、人数の推移から、3～4年は今のような規模で活動が継続できるだろうとのことである。さらにその先、

人数がだいぶ減ってくることも考えられるが、少なくともある程度は継続したい。

【石野委員】

今年購入したら、4～5年は新しいものを購入しなくても賄えそうだということか。

【提案者2】

使用の状況にもよるが、そういうことになる。

【提案者1】

今、黒田小学校の後援会費は、全世帯で約1,000戸あるが、1世帯あたり200円ほどが金管の活動に使われている。他にもっと使いたい部分があるのだが、そちらに使われてしまうという状況であるため、他の子どもたちの他の面でバックアップする体制を作っていきたいと考えているので、その辺をくんでいただきたい。

【石野委員】

金谷区の小学校の中で後援会費が一番高い。2倍～3倍以上。

【土屋委員】

今回購入する楽器は、要は古くなって変えたいということか。他にも古いのがいっぱいあるが、とりあえず今回はこれを変えたいということなのか。

【提案者1】

特に傷みの激しいもの、あるいは音が出にくいものを優先して買いたいと考えている。ただ、35年前に一律に購入したので、年数的には全て同じだが、使用頻度や状態によって劣化も異なる。

【齋藤委員】

楽器を購入することは分かるが、講師から教わるのに謝礼を出すというのは、地域活動支援事業でそれを提供するものなのか。例えば何かの作業をして、ジュースやお茶を出すのは認めているが、講師謝礼というのは初めて見る。これは気持ちであるので、当事者の考え次第でなされるものではないか。それも地域活動支援事業を使うというのは筋が違うのかなと思った。

【提案者1】

今までも謝礼としてお礼を差し上げていたので、今回もこういう形で提案した。

【齋藤委員】

前は入っていたのか。

【提案者1】

前は入っていなかったのではないか。

【提案者2】

謝礼は後援会費から出し、地域活動支援事業については楽器の方を中心に、と線を引いている。

【竹内委員】

140周年を4年前くらいにやったのだろう。その前にも、山麓線開通時の演奏をした年にも地域活動支援事業を使ったとのことだが、周年事業をやった時に、楽器等に回すお金はあったのか。また、いろいろ資金がないということだが、例えばうちの小学校の時は、楽器だけだと音楽系ばかりにしか恩恵がないので、体育系を含めての活動費ということで、一口1,000円くらいずつ集めていた。そういう形で何かをしていかないと、楽器はどんどん古くなっていくので、何か手だてが必要ではないかと思う。この制度があるうちはよいが、その努力もしていかないとまずいのではないか。

【提案者1】

将来的にはそういう考えも必要になってくると思う。だが現状、黒田小学校の後援会費というのは、近隣学校と比べて2倍以上、3倍ぐらいの値段をとっている。これ以上同窓会の値上げをするというのは、まだ時期が来ていないという気がしている。どんどん世帯が増えてくれればよいが、今のところそんな大きな動きもないので、将来的にはそういう考えで行くべきだと思うが、今はそうしていきたい。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.12「金管演奏による黒田小学校区地域活性化事業」の審査・採点を終了。

整理No.13「中ノ俣古道整備事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

古道整備は総勢6人で12日作業をするという形だが、ボランティアでもう少し人を集めることはできないか。地域内だけではなく、広い地域を考えてできないか。

また、これは事務局に確認するべきだと思うが、散策会費の中に宿泊費があると思うが、これは地域活動支援事業から出してもよいものなのか。散策参加費用として一人1,500円もらっているから、3,500円分は地域活動支援事業から出すという形になるかと思うが、地域活動支援事業の中に食費等の項目はないと思う。これはおかしいと思う。

それと、マップの作成だが、ある程度整備ができて初めてマップが作れると思う。あとは、業者に丸投げではなくて、自分たちで書いたりすることを考えてほしい。最初からこうやるというのは、後で修正もしていかなければいけないと思うので、時期を1年でもずらした方がよいのではないか。

【提案者】

もっと多くの人員をボランティアとして集めて、中ノ俣だけではなくていろいろな地域の人と一緒にやったらどうかという話だが、もちろんそのように考えて、そういうことができたらいいなと考えている。私たちも中ノ俣だけしか繋がりがなかったので、活動していく中で、後谷の方、滝寺の方、宇津尾の方、正善寺の方と繋がりながら、たくさんの皆さんに関わってもらいながら整備を続けていきたい。

【石野委員】

中ノ俣には、「はだしの会」など他の会がいろいろある。そういうところといろいろな部分でタイアップしながら活動はできないのか。

【提案者】

もちろん「はだしの会」の皆さんからも協力してもらおうと考えている。ただ提

案するにあたり、「はだしの会」の活動の趣旨と少しずれている部分があったり、代表者が「はだしの会」の会員でなかったりしたため、新たに会を立ち上げた。もちろん既存の会からも協力してもらいながらやっていきたい。

【石野委員】

今後いろいろな活動をやっていくのであれば、会をいっぱい立ち上げるよりは、ある程度統合してやっていった方がよい。ましてや、3年前に写真集を作ったが、あの成果も分かっていない。あれもかなりの金額をかけてやったと思う。出て行った人で近くにいる人もいるわけだから、そういった人に声を掛けて巻き込んでいくべきである。まちづくりという部分ではそれが重要だと思う。

【提案者】

そのとおりだと思うので、そちらについてはきちんと取り組んでいきたい。

マップの作成についても、そのとおりだと思う。計画を立てる段階で、「マップを作るのは時期尚早ではないか。」という意見も会員から出た。しかし、この活動を広めていくにあたり、まずはいろいろな方に来てもらわないと始まらないということで、道があり、こんな資源があるということをアピールするために、まずはマップが必要だという話になった。「今後どんどんリニューアルしていかなければいけない。」という意見も出たので、部数はそれほど多く刷らず、2,000部にした。今年はこのマップで散策をしてもらい、今年で全部配布してしまう。次にまたマップをリニューアルしたら、それを刷ろうと考えている。そうしないと、せっかく道を作っても、来てくれる人が少ないと活動を広げていくことは難しいという結論になった。マップに関して業者に丸投げするのではなくて、というのもそのとおりで、私たちが丸投げするつもりはない。印刷と編集をお願いする予定であり、「この地図はここに入れたい。」「ここにはこういうことを載せたい。」というのは、勉強会やそのあとの話合いの中で相談し、業者と打合せをしながら進めていきたい。

【石野委員】

ちなみに私は、「後谷・名水桜清水の会」の会員である。うちの方も、最初は「活動はこんなことをやっている。」という内容にし、活動の発展に伴って、きちんとしたマップではないが、位置図的なものを出した。まずは、こういうことを考えて、

こうやって拡大していく、という内容の広報誌やチラシにする方がメインではないか。そうでないと広がらない。

【吉村委員】

将来の発展性や今後の継続性を確認したいので、5人の方の平均年齢を教えてください。

【提案者】

私を除くと75才くらい。

【吉村委員】

5人の方は全て中ノ俣在住か。

【提案者】

全員中ノ俣在住である。

【桑山委員】

道路標識を30本製作するようだが、場所はもう決めているのか。

【提案者】

場所は決めていない。主だったところは決めてあるが、整備や勉強会をする中で考えたい。整備をする道が4本あるので、1本の道に対して10本は要らないかなと計算し、30本としている。

【土屋委員】

地域活動支援事業は、100パーセント通る場合もあれば、通らない場合もある。こんなに盛り沢山入れないで、例えば今回は道の整備だけ提案し、次はこれを整備するという感じで、徐々に出すのがよいのではないか。新規の事業なので、その辺は大丈夫なのか。

【提案者】

ごもっともだと思う。盛り沢山と言われれば盛り沢山だが、私たちの考えとしては、広い範囲を一気に整備してしまおうという考えではなく、自分たちができる範囲で整備をして、でもきちんと整備をしたものに対しては、きちんとお客さんを迎えられるような状態で完成させたい。見え方としては盛り沢山の内容に見えてしまうかもしれないが、その分範囲が狭いと覚えてもらえればよい。

【石野委員】

保存会の設立目的に、「ボランティア精神を持って活動することを目的とする。」とあるが、提案内容はボランティアうんぬんではなく、まずはマップなどを整備する内容になっている。

整備する道路を見ると、繋がっていない道路がある。これはどうやって行くのか。これだとマップを作っても人が行けない。

【提案者】

離れているところに関しては、途中の道は既にできている。南葉登山道の途中である。

【石野委員】

南葉登山道ではなく、中ノ俣と南葉キャンプ場を結ぶ林道では。

【提案者】

林道ではなくて、南葉登山道になる。登山道の途中の道で、登山道から少し脇に逸れる道になる。なので、繋がっていないわけではない。海前峰という山があるが、中ノ俣の道を歩いている時にずっと見えている山で、それを見ながら歩いているとそこに登りたくなる。なので、そこへ行く道も整備させてもらいたい。

【石野委員】

南葉登山道は、既に整備されているということか。

【提案者】

南葉山道は整備されている。

【石野委員】

そこを整備している方は誰か。

【提案者】

上越市の観光交流推進課から委託されている。区間によって分かれているようだが、くわどり湯ったり村の方から行う団体と、高田の方からやってくる団体と分かれているようだ。私も何度か歩いたことがあるが、問題なく歩くことができる。

【石野委員】

川住副会長、南葉山のキャンプ場から上の道は市で整備しているのか。

【川住副会長】

登山道はきれいになっているが、どこがやっているかは分からない。

【石野委員】

長く続けていけるような活動にしていった方がよいと思う。

【高橋委員】

マップを作るというが、道ができないのにマップを作るというのは。

【提案者】

道はできる予定である。

【高橋委員】

できるのか。

【提案者】

歩ける状態にはしたい。

【高橋委員】

それなら今でもできる。

【提案者】

今は、全く歩けない。

【高橋委員】

だいたい何キロくらいあるのか。

【提案者】

計算したことはないが、全長にして10キロくらい。

【高橋委員】

ある程度でマップを作るようではいけないのではないかと。ここは観光地ではない。観光資源ではない。

【提案者】

もちろん今年1年でそうなるとは思っていない。

【堀川センター長】

先ほどの宿泊費の件について、事務局から説明する。

【小林主任】

宿泊費については、飲食等を含む宿泊費という形で計上されているが、食事については相応の参加者負担を求めることになっている。その点については各参加者で負担するという形であると事務局は判断した。宿泊費については、補助の対象となる。

【石野委員】

参加者の宿泊費を地域活動支援事業から出してよいということか。

【小林主任】

そのとおりである。あとは、審査でどう判断されるか、ということになる。

【石野委員】

「朝夕昼食付」とあるが、この3食が1,500円だというカウントになるのか。

【小林委員】

こちらではそう判断した。

【齋藤委員】

先ほど提案者に質問したが、講師謝礼もよいのか。

【小林主任】

講師謝礼も対象になる。

【堀川センター長】

地域活動支援事業のQ&A8ページの上段に、「ボランティアや、講演会の講師のお茶など、事業目的の実現に必要であれば対象となります。」とある。

【石野委員】

宿泊はまた別なのだろう。そういう認識はなかった。

【堀川センター長】

ただし、会議時のお茶は対象外である。純粋に事業の必要経費であれば対象になる。

【土屋委員】

金谷区の中での宿泊ということか。

【堀川センター長】

その事業を行う場所での宿泊ということ。

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.13「中ノ俣古道整備事業」の審査・採点を終了。

整理No.14「バレーボール文化の普及及び青少年健全育成事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【村田副会長】

保護者の負担はどの程度か。

【提案者】

年会費でいうと、一人あたり1万5,000円。プラス、全国大会に行くと一人あたり4万円から5万円。大阪が会場だが、大阪に2泊以上しないといけないので、それまでの移動費や宿泊費等を考えるとそのぐらいになる。

【高橋委員】

支出の内容を見ると、何から何まで。今まではどうやっていたのか。例えば出場の積立金までここに書いてある。ユニフォームは全部新品にする。ボールも新しくする。テーピング、コピー用紙、インク代、講師、封筒代、全て書いてある。それでもって、ユニフォームと活動費で41万1千円。その他に67万円。全国大会出場の積立金も地域活動支援事業を使うのか。

【提案者】

積立金は、保護者負担の中から積立てをしている。

【高橋委員】

それは分かる。108万2千円の中から地域活動支援事業41万1千円を使いたいというのだろう。その割合が大きすぎるので、今までどうやって活動してきたの

か。1年前の決算を見ると63万2千円。なぜ急に108万円になるのか。

【提案者】

ユニフォームとボール代。これがどうしても毎年買えなかったのもので、それを提案した。

【高橋委員】

というのは、うまくいけばここで何でも手に入るという考えだったらまずいと思った。

【提案者】

それはない。

【高橋委員】

提案の中身を見るとそう感じる。

【提案者】

通常の活動費、ユニフォームと活動備品以外は、今までもずっと保護者負担など頂戴したお金で何とかやってきたが、今回提案したユニフォーム代やボール代を、1年度で負担するというのはなかなか難しい。昨年度の63万円からかなり増えたわけではなく、活動備品とユニフォーム代が単純に増えたと考えて欲しい。

【川住副会長】

ユニフォームはほとんど受け継がれるものか。

【提案者】

そう。

【川住副会長】

個人でそのまま持っているのではなくて、次の人たちに引き継ぐのか。それは何年くらいか。

【提案者】

平成14年の設立の翌年に作った。毎年袋詰めにしている。

【川住副会長】

そして次の人に渡すと。

【提案者】

ナンバーが取れたり、毛玉も取っていたりしているようなユニフォームを10年以上使っている。これを刷新しないと、全国大会に行くのも恥ずかしいというのが正直なところ。

【石野委員】

中学生と小学校5～6年生が対象だが、全国大会に行っても試合に出るのはほぼ中学生だろう。

【提案者】

そう。

【石野委員】

中学生は何人か。

【提案者】

今年度は24人全て中学生。

【石野委員】

5～6年生はいないということか。

【提案者】

そう。昨年、一昨年までは1～2人いた。基本的にはボールとネットの高さの規格は、一般の規格を使うので、小学生にとってはなかなか難しいところがある。小学校のクラブに入っていない子たちも何とか救いたいということで、小学5～6年生にも募集をかけている。

【石野委員】

ユニフォーム代の31万6,000円だが、これで何着予定しているのか。

【提案者】

18着。

【石野委員】

1着1万7～8,000円くらいになるということか。

【提案者】

そう。上下と、ナンバーを入れる。あとはいろいろなネームが入る。

【石野委員】

24人いるのに18着では、全員の分のユニフォームがないのではないか。

【提案者】

18人しか登録できない。1番から18番までの登録。

【竹内委員】

団体の所在地が大貫1-9だが、これはどこか。

【提案者】

関根学園高等学校。

【竹内委員】

丁目はないのか。

【提案者】

過去のものを使ったので、もしかしたら丁目がないもので使ってしまったかもしれない。

【竹内委員】

大貫2丁目9-1だと思う。

【提案者】

活動も関根学園高等学校でやっている。

【伊崎委員】

新井雄大選手は、上越が誇るオリンピック選手の候補として私も応援しているが、上越地域はバレーボールがかなり強いと認識している。今まで新井選手の他にも、そのクラブで中学校から高校に上がり、県大会や全国大会に進まれていると思うが、今までの卒業生がどの高校でどのような成績だったか、分かる範囲で教えてもらいたい。

【提案者】

上越総合技術高等学校に行く子が非常に多い。当クラブで全国大会に行くと、全国大会に行ったという資格が得られる。そうすると、上越総合技術高等学校のバレーボールの推薦枠が5つあるが、当クラブからも毎年3~4人くらいは行っている。今の上越総合技術高等学校のメンバーの9割くらいが当クラブ出身の子で、過去最高は全国ベスト8まで行き、その半分はうちのクラブ出身の子である。新井雄大選

手の代でもベスト16まで行ったが、その時もレギュラー7人のうち5人がうちのクラブ出身。新井雄大選手もそうだが、当クラブ出身でないとバレーボールがここまで発展してこなかったというのもある。あと、3年前から関根学園高等学校にお願いをして、うちのクラブの初代出身の先生に教えてもらい、昨年ベスト8。これが県大会の最高成績。今年のレギュラーも半分は当クラブ出身の子である。あとは、上越総合技術高等学校を卒業してからも一般のチームで続けている子たちもいるが、その子たちが県で2位になり、北信越大会まで行っている。

【伊崎委員】

応援している。

【土屋委員】

こんなに素晴らしいクラブチームがあるということを知らなかった。マスコミの取材を受け、「ユニフォームが10年以上使っていてこんなにひどい。」というようなことを言うと、一気に寄付金などが来そうな気がした。新聞社を呼ぶなどしてみるのはいかがでしょうか。

【提案者】

大会に行った際には、上越タイムスや新潟日報の取材を受けて、記事になっている。あとは、このあいだOB会でも話をしたが、旧高田工業高校出身の事業家がたくさんOBにいて、寄付を募ることも構わないと内諾をもらっているのので、将来的には地域活動支援事業だけではなくて、他のところで寄付を募りたい。

【高橋委員】

ユニフォームは誰が着ているものなのか。

【提案者】

選手。

【高橋委員】

選手とは中学生か。

【提案者】

そう。

【高橋委員】

中学生が10年間も使用できるのか。小学生の時から。それは渡しているのか。

【提案者】

渡していない。クラブで保管している。

【高橋委員】

洗濯して、それをまた違う人が使うのか。古いのは嫌がらないのか。

【提案者】

伝統として、皆さん着たいということで。これは大会前に配る。

【高橋委員】

今の子どもは古いのは使わない。

【竹内委員】

今回は高田西小学校区の5～6年生の子どもたちとの交流をやりたいということだが、チームそのものは上越市全体のチーム。野球だと、リトルリーグとかシニアリーグという捉え方をしてよいか。

【提案者】

チーム数が増えればよいが、このクラブは上越市に一つしかないクラブである。県大会へ行っても、クラブは7～8チームというのが現状である。唯一の上越の中学校クラブで、市全体から来ているのが現状。ただ今年入った10人のうちの6人は、ウルトラビクトリーズという高田西小学校のクラブの出身の子である。

【齋藤委員】

練習は関根学園高等学校と上越総合技術高等学校とのことだが、小学生も一緒にやっているということか。

【提案者】

そう。

【齋藤委員】

ボールはそれぞれ別々ではなく、一緒か。

【提案者】

同じ公式ボール。

【齋藤委員】

小学生と中学生が同じボールか。高校になるとまた別か。

【提案者】

高校も同じサイズのボールである。ヤングクラブというクラブの趣旨が、「早期に一般と同じボールを使って高い技術を身に付ける」となっている。なので、リトルリーグと同じように硬式の同じ大きさの大きいボールを使い、高いネットでやるというのが趣旨になっている。

【齋藤委員】

ネットも一緒なのか。

【提案者】

ネットも高い。一般のチームと同じで2メートル43のネット。

【齋藤委員】

小学生が。

【提案者】

小学生も中学生もである。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.14「バレーボール文化の普及及び青少年健全育成事業」の審査・採点を終了。

整理No.15「金谷区滝寺不動尊 滝寺毘沙門堂活性事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【齋藤委員】

先ほど提案された「滝寺砦整備事業」と全く被っている。町内会と付き合いがあるという話だが、確かにトイレなどはないかもしれないが、一度に全部はできない。滝寺不動尊は宗教の関係になってしまうから、観光という部分で捉えるのであれば、滝寺まちづくり協議会や町内会など、いろいろな団体でやっているのだから、十分話をしてから行動した方がよい。提案内容は分からないでもない。今は歴女という流行がある。自分たちのグループでやるのはよいが、急に、天井から物を落とすようにやられると、地元の人はどう思うか。納得して了解して、「あなたがたでやってください。」、という話なら別だが。でない、これはいかななものかと思う。

【提案者】

町内会の方たちは、私たちが考えている案内板や表示板とは別の、道の中に入っていたところの案内板を提案に上げると言っていた。大通り沿いに、滝寺不動尊へ曲がるところに小さい木の看板はあると思うが、分かりづらい。私はここ数年いろいろな方に滝寺へ来るよう声掛けをしているが、曲がる場所が分からないということを再三言われている。そちらの案内板を私たちは提案するというので、町内会の方の提案する場所とは違っており、逆に町内会の方たちと連携を取っていたが故に、私たちはそこを提案した。町内会の方たちはもう10年以上続けていると聞いており、今回いろいろ連携して、これからもあちらでやっていることと一緒に協力してやりたいということで、いろいろ交流して話をさせてもらった。

【齋藤委員】

話は分かったが、提案内容は、「上越をわくわく楽しみ隊」という仲間の人たちの要望ということで、私はそういうつもりでいる。

【村田副会長】

私も齋藤委員と考え方が似ている。地域の一つの宝物を、二つの支援の方々が、それぞれ寄り添って上越市の観光にしようという姿形だと思う。では、その宝物は誰のものか、と思う。滝寺の町内会には相談して、よいと言われたようだが、一つの宝物を二人が交互に支援していく形はどうなのか。

【提案者】

交互というか。

【村田副会長】

入り口はそちらの団体がやって、中の方は滝寺町内会が看板を立てるのだろう。

【提案者】

町内会の方たちがやっている場所は、看板を付けないと分かりづらい場所。

【村田副会長】

お互いに打合せしながら、地域の一つの宝を支援していく姿が好ましい。

【提案者】

お互いで一つの形にするために、私たちとしては、数年間活動してきた中で曲がる場所が分からないというのがあり、地域の方たちは分かると思うが、上越市民としても知らない方がまだ多い。もちろん金谷区の方たち、滝寺の方たちの活動も大事であるし、そこを「一緒にやっていきましょう。」とやってきた中で、もっとたくさんの方たちに知ってもらうために、「滝寺不動尊」というのが通り沿いの見えるところにあれば、普段目にすることができるし、今はSNSの時代なので、どんどん仲間たちにも拡散していき、謙信公に興味を持ってもらう活動をしていく中で滝寺不動尊のこともPRしていくので、その時に「あそこだね。」というのが分かるとうい。

【村田副会長】

滝寺不動尊の所有者はどこか。県か、国か。

【高橋委員】

あれは直江津の方にいる人。町内会で管理しているわけではない。

【竹内委員】

八海山と同じ人。

【高橋委員】

護摩焚きという言葉が出てくると、どうしても宗教の方に行ってしまう。不動尊自体は観光マップに載せるが、お堂についての説明はしないし、護摩焚きというと宗教の関係になる。それを地域活動支援事業でどうこうするというのは、教育関係の人もそうだが、政教分離の話があり難しくなってくる。そちらの団体は、どんな関係でいろいろ活動をしているのか。

【提案者】

特に何の関係もない。

【高橋委員】

寺の人と話したことはあるのか。

【提案者】

誰もあそこを管理する人がいなくなったため、善意でやっている方である。なので、今はもうあちらを守る方が誰もいない。

護摩焚きを一番に伝えたいということではなく、謙信公の祈願所だったというところから、謙信公のPRをしていく中でとても大事な場所だと感じたので、そういう意味でぜひ絶やしたくないということ。

【高橋委員】

町内ではああいうのは管理できないと聞いた。町内会の提案と重なっていないければ看板はそれでよいが、管理というと難しくなる。

【提案者】

私たちは、管理はしない。

【高橋委員】

トイレを置くには許可をもらわないといけない。汲取りもしないといけないし、大変だと思う。

【提案者】

レンタルのトイレである。

【高橋委員】

レンタルはよいが、汲取りも時々しないといけないのでは。

【提案者】

汲取りは管理の中に入っている。古くて使いづらいトイレが一つあるだけである。あと、駐車場がないということで、今伐採をしている。あれは管理している方の活動で、共感してくれた方たちと、あとは皆さんの寄付で、そちらの方も今進んでいる。そちらの方とも連携している。

【高橋委員】

「上越をわくわく楽しみ隊」は何をしているのか。

【提案者】

上越というのは、妙高市、上越市、糸魚川市の3市が一緒になっているのだが、「お互い共によくなろう。」ということで、競争ではなく共に創ろうということで、糸魚川市、妙高市、上越市の仲間が共に活動している。

【高橋委員】

活動は何をやっているのか。

【提案者】

上越市は歴史がとても古いので、歴史資源を活用して、今回の滝寺だったら謙信公について学ぶといった、観光資源につながるような活動をしている。

【高橋委員】

歴史を訪ねて守るのがわくわく隊なのか。

【提案者】

確かに歴史を基にはしているが、それによって三世代交流が起きるなど、活動がどんどん広がっている状態である。私自身もそうだが、住んでいるところの歴史を知らなかったのが、正直上越を誇りに思えていなかったところがあった。だが、上越の歴史を知ることによって、私自身も上越は本当にいいところだと感じたので、私たちと同じ世代だけではなく、子どもたちや若い世代の人たちに伝えていくことはとても大事だと思い、仲間と活動している。

【石野委員】

提案は、まずは看板や案内板の設置というような内容がメインだと思う。市の関係課からは、「設置には文化財保護法にかかる手続きが必要なので協議してください。」や、「案内板の設置については調整が必要。」とあるが、既に調整しているのか。

【提案者】

今設置を考えているところは、いろいろと町内会の方たちと。

【石野委員】

町内会ではなく、市の担当課と。

【提案者】

市の担当の方たちとは、道路等の関係課とも連絡を取るようアドバイスをもらうなど、いろいろと相談に乗ってもらっている。

【石野委員】

要は、そこが「埋蔵文化財包蔵地内」というのになっていて、掘削などをするのに文化財保護法に係る手続きが必要というのがある。あと、違う団体から出ているものだが、毘沙門堂などの写真や地図が載っているマップがあるが、こういうのは知っているか。

【提案者】

そのマップは上越市のマップか。

【石野委員】

金谷区の団体が作ったものである。

【提案者】

上越市のマップは知っているが、金谷区で作っているマップは知らなかった。

【石野委員】

こういったものもあるので、そういうのを活用し、先ほど言った滝寺の活動組織とうまく調整を取りながら一つになって活動した方が、友好的にいい活動ができると思う。

【提案者】

なので、今いろいろな団体と実際に活動を進めているところ。単体でやっていることもあるが、つながってくるが多々あるので、是非つながっていきたい。

【石野委員】

看板を付けたから広まるというものではない。いろいろな部分で活用していくことで、周りも使っていくものだと思う。

【提案者】

それは実際に数年間活動している中で実感している。活動をしてきた中で、曲がるところが分からないという問合せがとても多かったので、いつも別の場所で待合せをして案内する。1回案内すると皆さん道は覚えるが、そんな活動を毎月のように

にしていた。

【石野委員】

のぼり旗を作り、その時だけ差しておくという工夫もある。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.15「金谷区滝寺不動尊 滝寺毘沙門堂活性事業」の審査・採点を終了。

整理No.16「金谷山太鼓 継承・振興事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

後援会から16万円ほど支出できないのか。ある学校だと、金管でそれ以上の金額を後援会から出している。

【提案者】

地域の方からは、たくさん支援をいただいている。市からの配当予算があるが、学校が古くなって老朽化しているので、学校の維持や、新しい指導要領も始まるので、そちらの教育備品や教材備品に使っている。高田西小学校では、金谷山太鼓と、6年生は金管をやっている。金管楽器の維持管理にお金がかかるので、後援会からは主に金管の楽器や衣装について支援をいただいている。金谷山太鼓についても、法被、のぼり旗、子どもたち用の飲み物や冷却シートなどの消耗品については、後援会からも協力いただいているが、金管と太鼓と両方やっているということで、地域活動支援事業の補助金をいただきたいという提案である。

【石野委員】

地域活動支援事業がなくなる可能性もある。そうすると、後援会に頼り切りにな

らなければいけないということか。

【提案者】

それか、楽器の老朽化をいかに防いで大事に使うか。

【石野委員】

老朽化が防げるかどうか分からない。

【提案者】

なので、この活動は続けて、金谷区地域協議会からも支援をいただき続けたいと思っている。

【石野委員】

地域活動支援事業がなくても続けて行けるよう、後援会と十分話してほしい。

【土屋委員】

今年度は樽太鼓が6台になっているが、前年度は樽太鼓24台の修理をしている。今回は、樽太鼓は修理しても駄目だということで新しく入れ替えということなのか、それとも24台プラス6台で30台にするということなのか。

【提案者】

樽太鼓については、今回初めて楽器屋と話したのだが、今までは楽器屋で修理してもらったものを、大工に修理してもらっていた。板が薄いとよく響くのだが、厚い板を釘で打っていた。本来は止めるだけのものを釘で全部打ち込んであって、楽器屋の話では、これはもう音が出ないとのことで、入れ替えを勧められた。そのため、少しずつ、何年か計画で入れ替えをしていきたい。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.16「金谷山太鼓 継承・振興事業」の審査・採点を終了。

整理No.17「金谷区地域活性プロジェクト事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【堀川センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

提案書には案が書かれているが、具体的な部分は定まっているのか。

【提案者】

全くのノープランである。何かアイデアを定めてしまうと、そちらの方にイメージが行きがちになると思うので、些細なことや大きなことでも、どんなアイデアでもよい。それを提案してもらい、そこから柔軟な意見をまずは集めたいと思う。私の中でのプランとしては、何も意見が挙がらなければ、例に挙げたものを実施していこうと考えている。

【石野委員】

可能性として、案が挙がってこなかったら活動自体がないということか。

【提案者】

何かしら作る予定である。

【石野委員】

宣伝広告費が30万円程度となっているが、ある程度目安があって算出されているのか。

【提案者】

まず全ての町内会館にポスターを張らせてもらうのに、金谷区の町内会館の数を調べた。そして金谷地域の企業などで、ポスター、チラシを置かせてもらうところなどから算出した枚数になっている。

【石野委員】

最終的な目的としては、まちづくりにつなげると書かれている。「楽しい街を造る。」と。この内容は、少子高齢化の「少子」の部分に対する活動をやることだと思うが、子どもの数が増えるのか。

【提案者】

若者たちが口々に言うのは、「上越はつまらないよね。」と。あとは「出会いがないよね。」というのが、若者の内なる思いである。そこで、例として挙げたのが、スポーツ交流会である。大々的に「出会いの会」としてしまうと、出てくる方が少なくなるので、そういうスポーツを通じての交流やコミュニティーをたくさん作ろうと考えている。

【石野委員】

確かにそういう出会い的なものは、昔から比べれば本当に少ないだろうし、ましてや男性女性それぞれ仕事を持ち、独り立ちがきちんとできているため、そういう結びつきがあまりなく、逆に彼氏彼女を作ろうとしない。面倒くさがって、独りの方がいいという雰囲気が非常にあると思う。それはここだけに限らず、全国的に。

金谷区でこだわるのではなく、上越妙高駅や上越高田インターをうまく活用し、多方面から協賛を得るようにするようなことがもっとあってもよいと思う。上越は企業が少ないため、なかなか大変だと思う。ただ、実際何をやるのか、具体的にあった方がよいと思う。

【齋藤委員】

フライヤーとは何のことか。

【提案者】

チラシのこと。

【齋藤委員】

構成員数は143人となっているが、皆さん共通の職業や趣味というのではなく、いろいろな団体が集合した構成員か。

【提案者】

フェイスブックに私どものページがあり、そこに今までの活動を掲載している。いろいろな方にシェアしてもらって、拡散されている。そこで興味を持った方からどんどん入ってもらい、会議をしている。

【齋藤委員】

金谷区の方というわけではないのか。

【提案者】

金谷区の方もいる。上越市全体で、現在143人。

【齋藤委員】

金谷区でやったものを他でも広げたいということか。

【提案者】

今回の提案としては、金谷区限定。金谷区の観光資源や文化など、何かスポットを当てて会議をしていくというものになる。今回金谷区で何かしらの事業やイベントが作られて、それが定着化していけば、来年度は金谷区だけではなく、高田区、春日区、直江津区等の5区くらいに広げて、いろいろな若者の意見を吸い上げて、それを実現していきたい。ゆくゆくは全区で行うことを考えている。

【齋藤委員】

昨年、金谷フェス実行委員会の事業が成功したが、皆さん方と関係はあるのか。

【提案者】

若者みらい会議の中から出てきたアイデアを実現した。

【齋藤委員】

若者みらい会議が母体ということか。

【提案者】

そう。

【齋藤委員】

この活動はもう独り歩きしているということか。

【提案者】

そう。

【齋藤委員】

上越若者みらい会議は、その上にある組織ということか。

【提案者】

私は会を企画するだけ。思いを持ったいろいろな人が出てきているので、それをサポートする。先輩方と若者をつなげる中間役のような立場である。

【齋藤委員】

壮大というか、スケールが大きい。具体的な部分も考えていると思うが、私とし

ては、団体の調整というだけで、ピンと来ていない。

【村田副会長】

事業費の大半は宣伝広告に費やされるが、イベントに対する経費は大丈夫なのか。

【提案者】

イベントの参加費を徴収して、帳尻を合わせる予定。

【村田副会長】

やっていけるのか。

【提案者】

やれる範囲で、ということになる。

1年目は知ってもらうことが大事なので、大きな金額で周知を行い、次年度以降は、地域を応援してくれる企業などに協賛をいただきながら活動を続けていきたい。

【土屋委員】

金谷区で提案したというのは、代表者が金谷区だからだと思うが、同じようなものを、例えば高田区や直江津区などに出していないのか。

【提案者】

まだ出していない。

【土屋委員】

先ほど、熱い若者の思いという話があったが、金谷区に若者がいっぱい来るのかなと思った。高田区や直江津区などにも同じような提案を出しているということであれば分散すると思ったが、そうではないということか。

【提案者】

はい。

【石野委員】

事務局に質問だが、福祉交流プラザの会場使用料として3万7,000円ほどが計上されているが、市の補助金を使って、市に支払うということになる。企業がやるイベントではないので、こういうのは使用料が要らないという形にはならないか。

【堀川センター長】

共生まちづくり課など市民の団体を統括するところに後援事業の申請をしても

らい、認められれば減免措置はあるが、その申請はまだされていないと思う。中身によって、例えば文化であれば文化振興課になり、子どもを対象とした教育の関係であれば教育委員会になる。申請先は事業の中身による。

【石野委員】

市の方で少しでも減免してくれるなら、活動内容や補助金の使い方も変わってくると思う。

【吉村委員】

事務局に聞きたい。この団体の活動は全市的に展開されている。例えば、役員が頸北の方にいたり、頸南の方にいたり、上越全体で何人か常務のスタッフがいたりするのだろう。そういう人たちが、同じ組織名で提案を出した場合、受け付ける時には目を通すのだろうが、地域協議会で審査する際のチェック機能みたいなのはあるのか。

【堀川センター長】

今の質問は、今はたまたま金谷区だけだが、他の区でもこの団体が同じ内容で提案した場合どうなるのか、ということか。

【吉村委員】

そう。

【堀川センター長】

それは区ごとの判断になるのではないか。

【吉村委員】

例えば、事務局の受付を通過して地域協議会の審査に出てきた場合、我々は直江津区で出ていることは分からない。直江津区の人には金谷区で出ていると思っていない。そういうすり合せはどうなのか。

【小林主任】

他の区でも同じ団体が同じような趣旨で地域活動支援事業を提案している場合は、こちらの方で情報共有はするし、審査の際には委員に伝える。

【吉村委員】

情報は共有しているということか。

【石野委員】

団体名を変えてしまえば分からない。

【堀川センター長】

情報は共有しているが、審査自体は個々にやっていいということ。どの区でどんな事業が提案されているかというのは、統括している自治・地域振興課の方で情報を集約しているため、我々は見ることにはできるが、審査自体の在り方はそれぞれの区に任せている。

【吉村委員】

我々は審査の前の段階でそれを知ることはできるのか。

【堀川センター長】

できる。

【吉村委員】

逆にそちらから積極的に助言が出るのか。

【堀川センター長】

今までそういうことはしてこなかった。他の区でこういうことをやっているという情報は、今まで積極的に出していないのではないか。

【吉村委員】

活動の内容が全市的に広がっているため、例えば金谷区の地域活動支援事業なのか疑問に思う部分があったので確認した。

【堀川センター長】

それを心配して、今回金谷区に限定したのかと思う。

【吉村委員】

提案団体には全然不安は持っていない。

【佐藤係長】

同じ内容の事業というのではなく、別の事業ということか。例えば、同じ団体が複数区に渡って提案しているなど。

【吉村委員】

同じ内容の事業でもよいし、別の内容の事業でもよいが、提案団体が同じ場合。

【佐藤係長】

同一団体が複数の区に提案することはできる。それによって、例えば高田区は採択されたが、金谷区は不採択になってしまった、という可能性はある。

【堀川センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収・集計 —

整理No.17「金谷区地域活性プロジェクト事業」の審査・採点を終了。

全ての事業の審査が終了したので、以降の議事進行を高宮会長に求める。

【高宮会長】

次に、審査・採点結果を集計し、それをもとに「採択事業の検討」をする予定である。本日そこまで進みたいと考えるが、委員に意見を求める。

【石野委員】

本日中に採択事業の検討まで終わったら、5月24日の会議はなしということか。

【高宮会長】

そう。

「採択事業の検討」まで進めてよいか諮り、委員全員の上承を得る。

— 40分休憩 —

【高宮会長】

会議を再開する。

審査・採点結果について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

審査・採点結果について説明。

- ・基本審査で「適合しない」が過半数：なし
- ・優先採択審査で「該当しない」が過半数：なし

・共通審査の得点が多い順に順位付け

- 1位 整理No.3 金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業
310点
- 2位 整理No.4 金谷区歴史観光開発町おこし事業 299点
- 3位 整理No.6 里道（旧後谷線）の整備事業 292点
- 3位 整理No.12 金管演奏による黒田小学校区地域活性化事業 292点
- 5位 整理No.14 バレーボール文化の普及及び青少年健全育成事業 288点
- 6位 整理No.16 金谷山太鼓 継承・振興事業 285点
- 7位 整理No.7 安全安心まちづくりの防犯活動強化事業 272点
- 7位 整理No.8 金谷区飯支部の交通安全確保事業 272点
- 9位 整理No.9 グランド・ゴルフで地域を活性化させる事業 270点
- 10位 整理No.11 金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業 259点
- 11位 整理No.10 金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を
図る事業 256点
- 12位 整理No.2 正善寺ダム周辺のアジサイの維持管理及び、水質保全と環
境美化事業 248点
- 13位 整理No.17 金谷区地域活性プロジェクト事業 232点
- 14位 整理No.1 滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業 226点
- 15位 整理No.5 滝寺砦整備事業 196点
- 16位 整理No.13 中ノ俣古道整備事業 188点

・共通審査で得点が半数未満により不採択：整理No.15

審査・採点結果について質疑を求めるがなし。

【高宮会長】

4月の会議で決めた方法を基に配分した金額について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

配分金額について説明。

- 1位 整理No.3 金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業
51万6千円

- 2位 整理No.4 金谷区歴史観光開発町おこし事業 50万3千円
- 3位 整理No.6 里道（旧後谷線）の整備事業 255万6千円
- 3位 整理No.12 金管演奏による黒田小学校区地域活性化事業 56万6千円
- 5位 整理No.14 バレーボール文化の普及及び青少年健全育成事業
41万1千円
- 6位 整理No.16 金谷山太鼓 継承・振興事業 15万8千円
- 7位 整理No.7 安全安心まちづくりの防犯活動強化事業 63万3千円
- 7位 整理No.8 金谷区飯支部の交通安全確保事業 40万1千円
- 9位 整理No.9 グランド・ゴルフで地域を活性化させる事業 14万2千円
- 10位 整理No.11 金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業 28万円
- 11位 整理No.10 金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を図
る事業 17万3千円
- 12位 整理No.2 正善寺ダム周辺のアジサイの維持管理及び、水質保全と環
境美化事業 9万9千円
- 13位 整理No.17 金谷区地域活性プロジェクト事業 31万7千円
- 14位 整理No.1 滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業 22万3千円
- 15位 整理No.5 滝寺砦整備事業 71万5千円
- 16位 整理No.13 中ノ俣古道整備事業 80万7千円

【高宮会長】

この結果を受けて辞退する事業があった場合は、その事業の希望額を除いて、再配分する。

このとおり配分することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

今ほどの採択結果により、850万円の予算に対し、残額は0円となった。

提案者への附帯意見を求めるがなし。

【石野委員】

提案書に収支計画を記載するが、整理No.14の事業などは自己資金で60万円程度使うと書いてあり、全ての支出金額が分かる。ああいった記載内容であれば、委員にとって分かりやすい。新しくできた団体は資金がないからそれはできないと思

うが、ずっとやっている団体は来年以降ああいう形で提案を出してもらおうのがよいと思うので、事務局に検討してもらいたい。

【小林主任】

提案書の収支計画の書き方については、基本的に提案団体に任せていたが、石野委員の意見のとおり、今後提案団体には、全ての収支を書くのがふさわしいと指導したい。

—次第4 事務連絡—

【高宮会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・地域活動支援事業は採択結果を受け、速やかに補助金交付決定を行う
- ・今後の日程

5月24日午後6時から予定していた会議はなし

令和元年度第3回地域協議会 6月26日（水）午後6時～ 福祉交流プラザ

- ・当日配布資料

吉川区地域協議会意見書（写し）

上越アクティブスポーツ協会からの案内資料

後谷・名水桜清水の会パンフレット

地域活動支援事業の宿泊費の関係は、再度確認して皆さんに報告したい。他の区でも似たような事例があるとのことなので、それも含めて紹介したい。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

6月の会議では、金谷区の地域課題「移住・人口対策」について自主的審議事項に取り上げるかどうかを協議するので、地域協議会で議論すべき課題があるかどうか、当日までに意見をまとめてきてほしい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。